

社記に月又十石記之天宿の龜年を許出
る。目安の月又古事より羽黒大工院七之京
と申す。初形又十石室を院に辨る。百五押
記をもとあり。

一 犂牛山

けし山をサ丁よりして十に丁又十又百又九寸
は余羽黒けし山の麓にあり。こゝ山雅集に曰
犂牛山ハ山の取牛の横たをれむに似てに
附着消果に班毛を著るによそへ。こゝから牛
りそとひつ。而又使ある名なりと云ふ。又同

書に山上の室を著禮山月山寺と号ふと
あり。今ハ月山とのと新をれを古号と事
ある人なり。萬經記にけし江川と申ハ羽黒
権現のこゝにあり。月山の禪定より山の
こゝに流れ落りりとあれを五代より月山
と稱まらる。あゝと申す。や羽黒記を見れ
ハ金剛界上品上生に阿彌陀伊持菩薩は
て月山の頂上に出現とあり。別毫に記し
傳ハ鹽土老翁氏内者祐（告めひ）といふ
文を見れハけし峯に出現。あゝハ昔を合する。